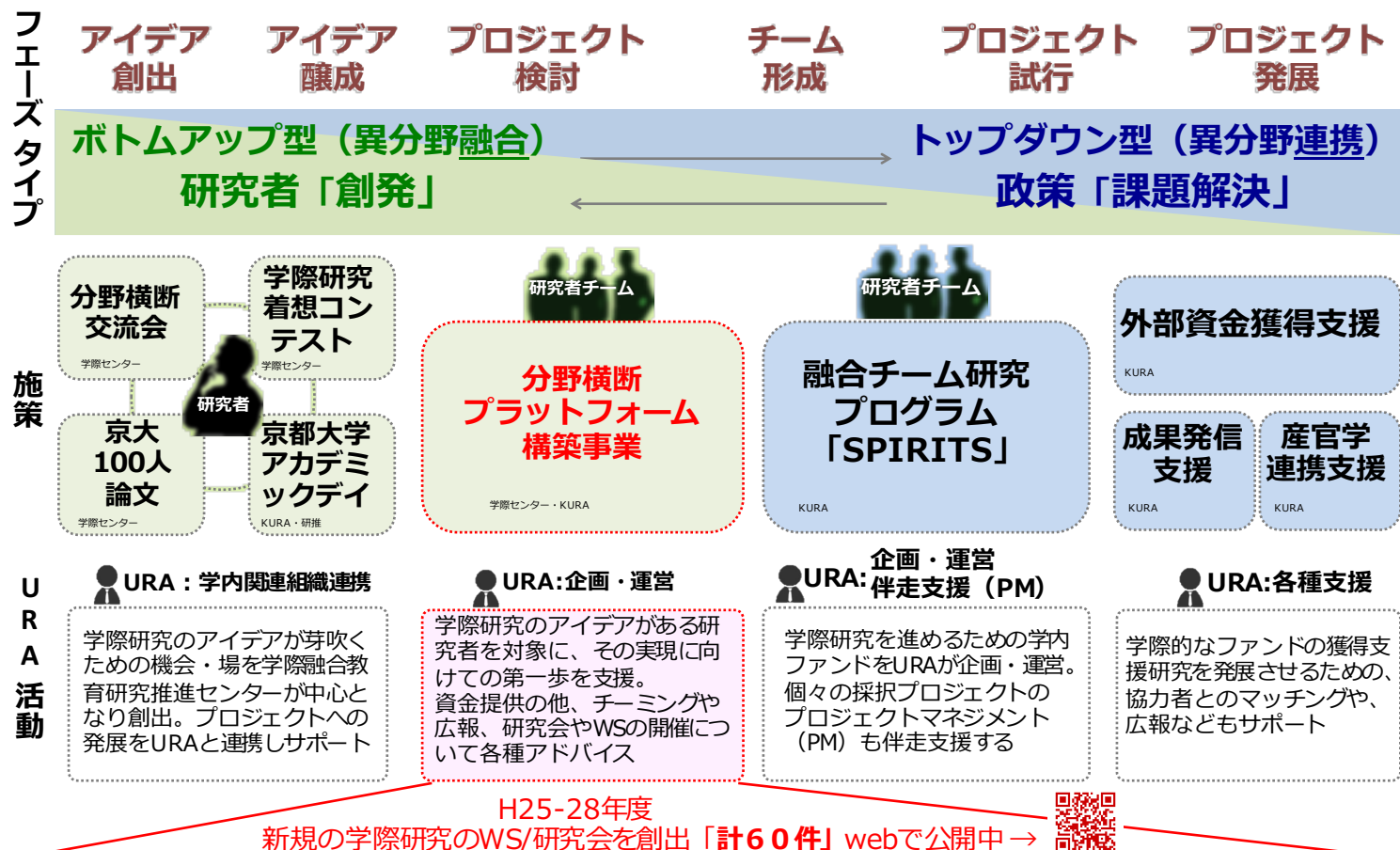


京都大学における 学際研究推進に向けた戦略的サポート

白井 哲哉（京都大学 学術研究支援室）

「学際研究」を取り巻く環境は時代とともに変化した。細分化・蛸壺化が進んだ学術研究では、異なる分野とのコミュニケーションが難しくなった。研究者も研究以外の業務に忙殺され、他の学術領域にまで飛び出す機会・体力が減った。一方、学際研究に対する社会からの期待は高まっている。社会問題など多面的課題の解決には「学際」が欠かせないからである。

つまり今、大学/研究機関には「学際研究を進める」環境・施策が必要である。「学際研究を進める」には学際研究のタイプ・フェーズを知ることが肝要である。学際研究といっても、異分野が「連携」する研究から「融合」する研究まで、研究者の創発によるものから課題解決を契機に始まるものまで、タイプは多様である。そして、これらは互いに繋がって発展する場合も多い。そこで京都大学では「学際研究」のタイプ・フェーズに合った多様な施策を展開している。



【対象】

新たな学際（共同）研究の萌芽的アイデアがあり、研究プロジェクトの実現に向けて動き出そうとしている京都大学の研究者

【手段】

WS・研究会の開催支援、コンテンツ作成支援、各種助言、人の紹介 etc.を通して、企画者と学内外の研究者、省庁、自治体、企業、NPO、市民等とがつながる場/機会/環境を醸成・拡充させる。

【効果】

- ・本学に学際力（多角的な視点・広い視野、異分野間のコミュニケーション力等）とPM力（運営ノウハウ、事務能力、意見をまとめる等）をもった研究者が増える。
- ・本学に分野横断型のさまざまな研究チームやネットワークができる。

【事業体制】

※学術研究支援室と学際融合教育研究推進センター（C-PIRE）とが連携して実施



【各種アドバイス】

テーマ設定・研究者紹介・広報/参加者集め・ファシリテーション方法・ディスカッション方法 etc.

【経費支援】

会場費・広報費・招聘/出張費・消耗品等 etc.

【成果発信支援】

K.U.Research のWEBサイト・Facebookを通じて新たな研究プロジェクトの発信・成果蓄積